

豊友会だより第十三回俳壇へのご応募ありがとうございました。投句いただいた全作品を掲載します。  
次回、第十四回俳壇へのご応募をお待ちしております。 豊友会だより編集係

### 第十三回豊友会俳壇(豊友会だより第72号)

#### 兼題1: 翺雲

投稿者	作品
赤塚 慎一郎	武蔵野の風止む時や翺雲
浅見 茂	孫の住む空に連なる翺雲
阿部 皓一	翺雲とどけ幾万ウクライナ
井池 輝繁	翺雲われは日本の男 <small>オノコ</small> なり
石井 孝夫	どこまでも続く階段翺雲
小俣 祥忠	老夫婦 <small>ヒトヒ</small> 一日寡黙や翺雲
海外 涼	人生はトントン拍子翺雲
川上 千里	翺雲がん病棟は静かなり
川畑 耕祐	見上げたる空に広がる翺雲
小泉 隆広	翺雲沈み行く日の羽衣に
斎藤 光	駐留機なき空港や翺雲
櫻井 暎子	飽きるほど見上げる空や翺雲
重田 康之	見上げれば目に翺雲大漁かな
武川 順子	ふと見上げもの寂しさや翺雲
土田 悦男	翺雲スーパー帰りの足軽く
内藤 俊彦	翺雲流るる峠汗ぬぐう
中村 隆晴	流氷の割れる如きに翺雲
本藤 聡子	翺雲と実りが主役の写真展
御蘭生 隆雄	遊園地孫を見守る翺雲
矢倉 弘泰	日は西に下校のチャイム翺雲
矢治 宏之	翺雲妻と出掛けし散歩道
屋代 順治郎	高層のビルの遥かに翺雲
吉武 繁廣	翺雲メット揃へてサイクリング

兼題2:母の日

投稿者	作品
赤塚 慎一郎	母の日や思ひ出遥るか日向灘
浅見 茂	母の日に父から聞きし母のこと
阿部 皓一	母の日は空を見上げるこの五年
井池 輝繁	母の日や母なき子との夕 <small>マドキ</small> 円居
石井 孝夫	母の日に初めてあげたハンカチを
小俣 祥忠	母の日や想い幼き日に帰る
海外 涼	母の日を妻の日に変え買物券
川上 千里	母の日や母の好みし野辺の花
川畑 耕祐	母の日を忘れて父に怒られる
小泉 隆広	母の日や園に並ぶ絵持ち帰り
斎藤 光	母の日に感謝感謝の愛の「喝」
櫻井 暎子	よもぎ餅捏 <small>コ</small> ねる母の日母の味
重田 康之	母の日に兄と偲びて墓参り
武川 順子	我が庭の母の日待ち兼ね咲きし花
土田 悦男	母見舞ふ好きなプリンとカーネーション
内藤 俊彦	母の日や孫も集まり晩御飯
中村 隆晴	母の日や晴れて娘は母となり
本藤 聡子	母の日でない日も感謝の気持ち添へ
御蘭生 隆雄	白い花後悔だけが母の日に
矢倉 弘泰	母の日の花々の鉢卓上に
矢治 宏之	母の日や母の笑顔の懐かしき
屋代 順治郎	母の日や待ちし電話に笑みこぼれ
吉武 繁廣	母の日や寝返りまだかあやす母

自由題:「夏」「秋」の季題より

投稿者	作品
赤塚 慎一郎	声にしてけんこの句なり柿の秋
浅見 茂	霧の道無窮を歩む二人連れ
阿部 皓一	夏つばめ旋回したる雨上がり
石井 孝夫	三十年ふたたび職場の夏の宴
小俣 祥忠	ミサイルもドローンも無き高き空
海外 涼	玉蜀黍火傷かまわずかぶりつき
川上 千里	冷酒の喉越しのまた特別に
川畑 耕祐	村中が鐘と太鼓の秋祭り
小泉 隆広	女連れ相乗りになるすずみ舟
斎藤 光	爆笑で了る法話や百日紅
櫻井 暎子	浴衣着て年に一度の盆踊り
重田 康之	登りきて友と高尾に生ビール
武川 順子	盆踊り団扇持つ手に風も舞う
土田 悦男	赤とんぼお墓に集ふ三回忌
内藤 俊彦	子が希望聴き父の日に黒ベルト
中村 隆晴	故郷を思ひ起こせし栗の味
本藤 聡子	登り来て清水の先に流れ無し
御蘭生 隆雄	酒涙雨淡い夜には会いたくて
矢倉 弘泰	見しテレビ終ってあたり昼寝覚
矢治 宏之	切り株の渦の真中を夏の蝶
屋代 順治郎	夏の蝶日向日陰の舞ひ踊り
吉武 繁廣	弾むこゑ車内放送夏の富士